



令和8年度 グランドデザイン（学校運営の全体構想） 浪合小学校

浪合の理念

「村全体が村民全ての浪合学校」

地域に学ぶことによって、村への愛着と時代に即応した力を身に付け、地域の良さを知ることによって、生き生きとした暮らしのある村づくりを進める。

- ◆教え育てるよりも才能を引き出す
- ◆少人数の特徴を活かす
- ◆主役は村民（主役は子ども）
- ◆浪合の資源は「人」である
- ◆自然との調和、農山村の価値

少人数の良さを生かして

- ・つぶさに観て、実態把握
- ・細やかな共感と支援
- ・個に応じた指導の充実

子どもと共に創る

- ・「はじめに子どもありき」（下記）
- ・子どもの主体から学びを支援
- ・心の「居（場所）・触（れ合い）・充（足）」
- ・子どもと共に教師も学ぶ
- ・体験活動の重視

学校教育目標

- 1 自分で考え、行えるひと
- 2 人のために尽くせるひと
- 3 心と体をきたえるひと

【願う子どもの姿】

- (1) 考えて、思いやりをもって、勇気をもって聴き話す。
自分の考えを自分の言葉で相手に伝える。
- (2) 困っている人、悲しんでいる人を見過ごさない。
相手の気持ちを推し量る。
- (3) なまけ心に負けない。あきらめないでやってみる。

本年度の重点

- 基礎的基本的な知識技能を習得できる授業
- 「ひびきあい」共に学びあえる授業
- 一人になって追究できる授業
- 思考力・判断力・表現力を磨く授業
- 子どもの発想を大切にしたい楽しい授業

学校の環境

- 山々と清流、豊かな自然・気候
(冷涼多雪～スキー場や別荘地も)
- 豊かな史蹟・伝説、文化的風土
(尹良親王墓・浪合神社・関所、念流等)
- 教育立村の理念に基づく学校
- 全校35名の小規模校
- うち約3分の1が通年合宿センター生
- 平成18年阿智村合併
- 平成23年度阿智中統合

地域と共に歩む学校

- ・保護者、通年合宿センター生の保護者、地域の方々にお越しいただく授業参観、学校諸行事等
- ・地域講師を、総合的な学習ほか授業や学校教育に積極的に招聘
- ・地域行事への参加

地域の自然に即した情操教育

- ・日本一の星空
- ・自然を五感で感じる感性
- ・生命への畏敬

授業改善Ⅰ（教科学習）

- 学習問題・ねらいの明確化
- 「共に」、「一人で」考える時間の保証
- 板書の工夫
- その子なりの表現を生かす
- 振り返りと確実な見届け
- 個別最適な学び 協働的な学び

授業改善Ⅱ（地域・自然・交流）

- 学年の中核活動の設定
- 課題意識の醸成と深化
- 生活に根ざした多様な学習
- 学び方・考え方の振り返り
- 適切な評価
- 対話的・主体的で深い学び

研究テーマ

共に学び合う子ども

読書活動

健康教育

情報教育

ICT教育

人権教育

特別支援教育

体と命を考える教育

清掃

食育(自校給食)

全校体育 (地域も一緒に) 「浪合大運動会」

環境教育

宿泊体験・みどり・森林学習等

中核活動・学習発表会 地域の笛・太鼓・詩吟・神楽等

山の村児童会

PTA・地域と資源回収

全校音楽 (地域を招いて) 「音楽会」

安全行事

生活指導(生徒指導)

児童支援

- ① つまずき等把握(アセスメント)
- ② 個別の指導計画の作成
- ③ 定期的な情報交換と評価
- ④ 校内支援体制の検討 等

教育研究

- ① 反復定着学習の工夫
- ② 放課後学習、自主学習の工夫
- ③ 定期的情報交換、共同歩調
- ④ 有効教材等の共有化 等

職員研修

- ① 学級経営について学び合い
- ② 定期的情報交換、助言支援
- ③ 授業公開と相互の批正
- ④ 特別支援・人権教育等研修

【目指す教職員の姿】

- ア 保護者や地域の方との意思疎通を大事にします
- イ 「成長なくして安定なし、改革なくして成長なし」
向上心を持ち、自己研鑽に努めます
- ウ 「子どもの心に生まれる言葉が見える教師」
どの子にも協調的に関わります
- エ コンプライアンスを一義とします

子どもに即し、
地域に即す。

通年合宿センターとの連携

地域との連携

家庭との連携

諸機関等との連携

保小・小小・小中の連携

学校評価

学校評価アンケートでは、「学校教育目標」「願う子どもの姿」「本年度の重点」等に寄せて、その達成状況を「教職員」「児童」「保護者」が評価する。集計作業は、学校および学校運営委員会が行う。結果について保護者、地域の方々に公表し、学校運営への理解や参画等も得ていく。PDCAサイクルを機能させ、組織的・継続的に学校運営の改善を図る。